

研究業績一覧表 記載要領及び記入例

【記載要領】

A. 一般的な注意

1. 本業績一覧表は、准教授、診療准教授、講師、講師（准）、助教、助教（准）、特務教員、特任教員、客員教授、非常勤講師の上申に適用されるが、非常勤講師の上申の場合は、学会（研究会）発表並びにその他の項目の記入は省略可である。
2. 必ず「様式 教-5」を用い、A4 版3～4頁に入るように記入すること。
3. 用紙内に記入しきれない場合は、その他何篇（冊、回、項など）とその総計を明示すること。なお、総説・原著については総計のうち「英語論文の総計」を明示すること。
4. 記入は欧文・和文を分けずに新しいものから順に記入し、区分ごとに一連番号を付す。
5. 記入の項目順については、欧文はAmerican Medical Association(AMA)形式にならば、Times New Roman 体で記入。
和文は明朝体（英数字は半角、句読点は「，」「。」（全角））で記入。
フォントの大きさは欧文和文ともに10ポイントを使用すること。
（AMA形式の並び順：著者名（，で区切り）、論文題名、書（誌）名、発行年；巻（号）：開始頁～終了頁、DOI）ただし、（号）は省略可
6. 著者（演者）名は基本すべて論文に記載されている順に記入し本人の氏名には一重下線を引くこと。
ただし、著者多数の場合、欧文はet al. 和文は他○名を使用し最後に本人の順番を（○人中△番目）という記入でもよい。

【参考】AMA形式に変換方法

- <https://mickschroeder.com/citation/> のPubMedに掲載されている論文の「PMID」を入力するとAMA形式に変換できる。ただし、著者多数の場合はet al. で表示される。
 - PubMed ID からのAMA citation style準拠論文リストの作成（学内HP）
https://office.ompu.ac.jp/closed/jinji/personnel_section/manual/pmid2ama/pmid7J.html の「PMID」及び「氏名」を入力すると、AMA形式すべての著者が表示されるように変換でき、氏名に一重下線が引かれ、DOIナンバーが有るものは付記されて表示される。
7. オンラインジャーナルの場合でページがないものは、ジャーナル（雑誌）から与えられた論文番号の前に「e」を付す。
 8. 論文は基本的に査読のあるものを記入。

B. 項目別の注意

1. 著書の項には、単著、共著、編著、分担執筆など必要項目を記入し、著者名、タイト

ル名．書籍名（編集者名）．発行社名（出版社）．発行年；発行地．年：頁などを記入。

【参考】

- (1) 単著は、著書を一人で執筆したもの
 - (2) 共著は、著書を複数の者で執筆したもの
 - (3) 編著は、著書を編集執筆したもの
 - (4) 分担執筆は、著書について編者が他にいて分担執筆したもの
2. 総説・原著の項には、著者名．タイトル名．雑誌名．年；巻（号）：頁などを記入。
 3. 総説・原著の項には、最近数年のもの（特に英語論文）に重点をおき、優れていると思われるものを選択し、必要に応じて最後に括弧内にその他の情報を記入する。
 - ・ 原著論文が印刷中で、掲載証明のあるものは、最後に（印刷中）と記入。
 - ・ 学位論文は、古い場合も記入し、その終わりに（学位論文）と記入。
 - （雑誌に掲載されてない場合は誌名、巻、号は不要）
 - ・ 准教授・診療准教授の上申では、英語論文20編（学位論文を除く）を記入。
 - （英語論文総数が20編に満たない場合は、全ての英語論文を記入すること）
 - ・ 講師の上申では、直近5年間の英語論文（学位論文を除く）を記入。
 - ・ 症例報告は、それを原著区分にあげても良い、最後に（症例報告）と明示し、抄録は省く。
 - ・ Corresponding authorの場合は最後に（Corresponding author）と記入。
 - ・ 学会・研究会等で表彰された論文に、その旨を記入することは差し支えない。
 - （ポスター受賞）等。（履歴書の賞罰等の欄に記入要）
 4. 学会（研究会）発表（特別講演、教育講演、シンポジウム、パネル、一般演題等）など基本的には筆頭の主なものを、発表者．演題．学会名（場所：年月）の順に記入。国際学会を優先させることが望ましい。総会、地方会を問わないが、シンポジウム座長やオーガナイザー等を務めた場合に、その旨が分かるようにする。
 5. 特許及びその他の項には、特許申請及び取得があれば、発明者、発明の名称、出願番号・公開番号・登録番号のいずれか、対象国の順に記入。
教育講演、学術記事、ニュース記事、エッセイ、ビデオ発表、実験供覧、コンピューター・プログラム発表、TV、ラジオなどの出演項目等を記入しても差し支えない。
 6. 過去5年間の外部資金採択の頁には、科学研究費助成金及びその他の助成金の申請の有無を記入し、区分の欄に採択・不採択・申請中を記入、氏名（代表・分担の別）．研究種目．研究題目．期間．金額（間接経費含む）の順に記入。
 - ・ 不採択の場合、申請外部資金の金額は記入不要とし、評価結果が「A」の場合は最後に（評価結果A）と記入。
 - ・ 分担者の場合の金額は、代表者の採択金額を記載。
 - ・ 6年以上前の申請については記載しないこと。
 - ・ 6年以上前の申請しかない場合は「なし」と記載した上で、括弧書きで参考として記載することは構わない。

【記入例】

研究業績一覧表

●●●●年●●月●●日現在

(氏名 医大 太郎)

区分	著者(演者)名. 論文題名. 書(誌)名. (編集者). 発行社名. 発行地. 発行年; 卷(号): 開始頁~終了頁. (学会名) 等
著書	1. <u>医大太郎</u> . 病棟の臨床推論の学び方. The 臨床推論. (大西弘高編). 南山堂. 東京. 2012;49-59. 2. <u>医大太郎</u> , 大阪大助. 指向進化による酵素の基質特異性の改変. タンパク質の分子設計 (高槻花子編). 共立出版. 東京. 2010 ; 160-70. (他 3 冊, 総計 5 冊)
総説	1. <u>医大太郎</u> . 診療の現場での教育能力. 総合診療医学. 2012 ; 13(2): 185-190. 2. <u>Idai T</u> , Idai J, Idai K. GABA and GABA receptors in the central nervous system and other organs. Int Rev Cytol (Int J Biochem Cell Biol). 2008;213:1-47. 3. 高槻花子, <u>医大太郎</u> , 大阪大助. 特集よくある症状 35 の鑑別診断チャート: 30 歩行障害. 臨床研修プラクティス. 2007 ; 4(2): 68-9. (他 0 編、総計 3 編、総計のうち英語論文 1 編)
原著 (症例報告も含む) (抄録は省く)	1. <u>Idai T</u> , Idai J, Idai. PLK1-dependent activation of LRRK1 regulates spindle orientation by phosphorylating CDK5RAP2. Nat Cell Biol. 2022;17(8):1024-35. 2. Idai J, <u>Idai T</u> . Boundary of the nucleotide-binding domain of Streptococcus ComA based on functional and structural analysis. Biochemistry. 2022;52(15):2545-55 3. <u>Idai T</u> , Idai J. Aire controls the differentiation program of thymic epithelial cells in the medulla for the establishment of self-tolerance. J Exp Med. 2021;205(12):2827-38. 4. <u>Idai T</u> , Idai J, Idai K. A local GABAergic system within rat trigeminal ganglion cells. Eur J Neurosci. 2021;23(3):745-57. 5. 6. 7. 8. 5~11 はその他の英語論文を記載 9. 10. 11.

研究業績一覧表

(氏名 医大 太郎)

区分	著者(演者)名. 論文題名. 書(誌)名. (編集者). 発行社名. 発行地. 発行年; 巻(号): 開始頁~終了頁. (学会名) 等
(続)	<p>12. Idai K, Idai A, et al. Proteose peptone enhances production of tissue-type plasminogen activator from human diploid fibroblasts. <i>Biochem Biophys Res Commun.</i> 2018;150(3):1230-6. (9人中8番目)</p> <p>13.</p> <p>14.</p> <p>15.</p> <p>16.</p> <p style="text-align: center;">13~19 はその他の英語論文を記載</p> <p>17.</p> <p>18.</p> <p>19.</p> <p>20. 高槻華子, 大阪大助, <u>医大太郎</u>. 日本と中国の両施設における糖尿病患者の自己管理の現状と生活の質に関する比較(第一弾). <i>日本慢性看護学会誌(1882-2061)</i>. 2015 ; 9 (1) : 10-14. (Corresponding author)</p> <p>21. <u>Idai T</u>, Idai J, Idai A. A surgical loupe system for observing protoporphyrin IX fluorescence in high-grade gliomas after administering 5-aminolevulinic acid. <i>Photodiagnosis Photodyn Ther.</i> 2000;10(4):379-81. (学位論文)</p> <p>(他 29 冊、総計 50 冊、総計のうち英語論文 40 冊)</p>

研 究 業 績 一 覧 表

(氏名 医大 太郎)

区分	著者(演者)名. 論文題名. 書(誌)名. (編集者). 発行社名. 発行地. 発行年; 巻(号): 開始頁~終了頁. (学会名) 等
学会 研究会 発表	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大阪大助, <u>医大太郎</u>. Delta-like3 のメチル化異常と肝臓癌の発育・進展. 第●●回日本●●学会総会 (香川県高松市: 2014.2) 2. <u>医大太郎</u>. 心筋炎の病態と治療. 第●●回日本●●学会 (大阪: 2013.10) 3. <u>Idai T, Osaka T</u>. Quantitative histological study of goblet cell in rat septum. 4th Osaka International Symposium (San Diego:2007.11) (シンポジウム) <p style="text-align: center;">(他 67 回、総計 70 回)</p>
特許 及び その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>医大太郎</u>, 医大花子, その他●名. 組成物. 特許第 2687542 号. 1998 年. 日本 2. <u>医大太郎</u>. 阪神大震災からの教訓. 毎朝新聞. 平成 7 年 2 月 17 日. 朝刊 (社会面) 3. <u>医大太郎</u>. 災害救済における医療救急活動の始動ブロック・ダイアグラム. 医療とコンピューター . 1995 ; 11 : 8-11. <p style="text-align: center;">(他 0 項、総計 3 項)</p>

研 究 業 績 一 覧 表
(過去5年間の外部資金採択)

(氏名 医大 太郎)

科学研究費助成金申請		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
区分	氏名 (代表・分担の別) . 研究題目 . 研究種目 . 期間 . 金額 (間接経費を含む)	
採択	1. <u>医大太郎</u> (代表者) . <u>ピリドキサル酵素の反応特異性制御機構の解明.</u> 基盤研究 (C) . 2012年4月1日～2015年3月31日 . 6,000千円	
不採択	2. <u>医大太郎</u> (代表者) . <u>医療事故体験 VR シミュレーション教育プログラム開発.</u> 基盤研究 (A) . 2011年度～2012年度 . (評価結果 A)	
採択	3. <u>医大太郎</u> (分担者) . <u>進化分子工学を用いたアミノ基転移酵素の基質特異性の変化.</u> 奨励研究 (A) . 2009年4月1日～2012年3月31日 . 1,000千円	
	(他 <u>0</u> 件, 総計 <u>3</u> 件)	
その他の助成金申請		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
区分	氏名 (代表・分担の別) . 研究題目 . 研究種目 . 期間 . 金額 (間接経費を含む)	
採択	1. <u>医大太郎</u> (代表者) . <u>転写因子 ChREBP による脂肪合成酵素の誘導メカニズムに関</u> <u>する研究.</u> 大阪難病研究財団海外派遣補助金 . 2012年度 . 1,000千円	
	(他 <u>0</u> 件, 総計 <u>1</u> 件)	